

課題を共同で追究する授業づくり

—地域素材「さつまいも」を生かした歴史学習を通して—

浦添市立内間小学校教諭

仲宗根 勝也

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
	1 基本仮説	1
	2 作業仮説	2
IV	研究内容	2
	1 地域素材を教材化する意義	2
	2 地域素材の教材化の視点	2
	3 日本の歴史と琉球・沖縄の歴史との対照と地域教材表	3
	4 共同学習での授業づくり	5
V	研究の検証	6
	1 授業実践	6
	2 仮説の検証と考察	14
VI	研究のまとめ	18
	1 成果	18
	2 課題	18
	終わりに	18
	参考文献	19

課題を共同で追究する授業づくり

—地域素材「さつまいも」を生かした歴史学習を通して—

浦添市立内間小学校教諭 仲宗根 勝也

【要約】

この研究は、「自ら考え主体的に判断し行動する」子の育成を目指す指導の工夫の一つとして、地域素材を生かした教材を通して、小学校の歴史教育における授業づくりの方法を「課題を共同で追究する」視点で探究しようとするものである。

地域の素材から「学習できること」（課題）を持たせ、それをグループで調査し、調査した内容について学級全体で討議する。そして、討議から出た新たな課題について再調査し検証を行う。さらに、それぞれの視点で取り組んだ内容を総括することにより各々の関連性が見えてくるという学習過程を取り入れた。

その結果、児童の「学ぶ」ことについての認識に変容が見られ課題追究の共同学習の有効性が確認できた。また、地域の歴史素材を教育課程内へ位置付けることの有用性も確認できた。

キーワード □小学校歴史教育 □課題追究の授業 □地域素材の教材化 □共同学習

I テーマ設定の理由

今日の子どもを取り巻く社会や環境は、めまぐるしく変化しつつある。その状況下で、「新しい学力観」が提唱された。それをもとに各学校では、「自ら考え主体的に判断し行動する子」の育成に重点をおき、めまぐるしく変わる現代社会を生き抜く子を育てることを目指し日々取り組んでいる。

しかし、現在の子どもの状況と照らし合わせると、いくつかの課題があげられる。

まず、課題となる材料を目の前にしても、何をどう考えていいのかわからず、自分の課題を持つことができずにいる子が増えていることがある。経験・体験等の具体的な操作を伴っていないことが多いため知識が先行し、思考を深めることが子どもの発達上困難になっている。

次に、他者との交わる機会が少なくなり、集団と自分との関わりをうまく結べない子が増えてきているという状況がある。その状況下では、他者の目を過剰に意識するようになり、主体性を発揮することが難しくなっている。

さらに、自ら進んで行動するよりも、与えられた課題を指示されて行動する機会が多くなり、自分でやり遂げる成就感や満足感を味わうことが少なくなっ

てきている。その中で、自ら行動するよりも、指示されるのを待つ子が増えてきている。

以上の課題に取り組む指導の工夫の一つとして、「課題を共同で追究する授業づくり」を「地域素材」を用いた内容で行うことを試みた。

地域の素材を活用し、現実味のある学習（経験・体験）を行い、自分のやりたい内容で行う。それを、自分で考える視点や見通しの持ち方、自分の課題を共同で取り組む方法、研究結果の総括する授業過程で行う。その中で、子どもの興味・関心や学習内容の理解が深まり、自分でやり遂げる成就感・満足感から自分に自信を持って行動する子が増えることを期待して本テーマを設定した。

II 研究の目標

- 1 課題を共同で追究する授業の意義や有効性を明らかにする
- 2 地域素材の教材化や現在使用されている教材との互換性をふまえた対照表の作成

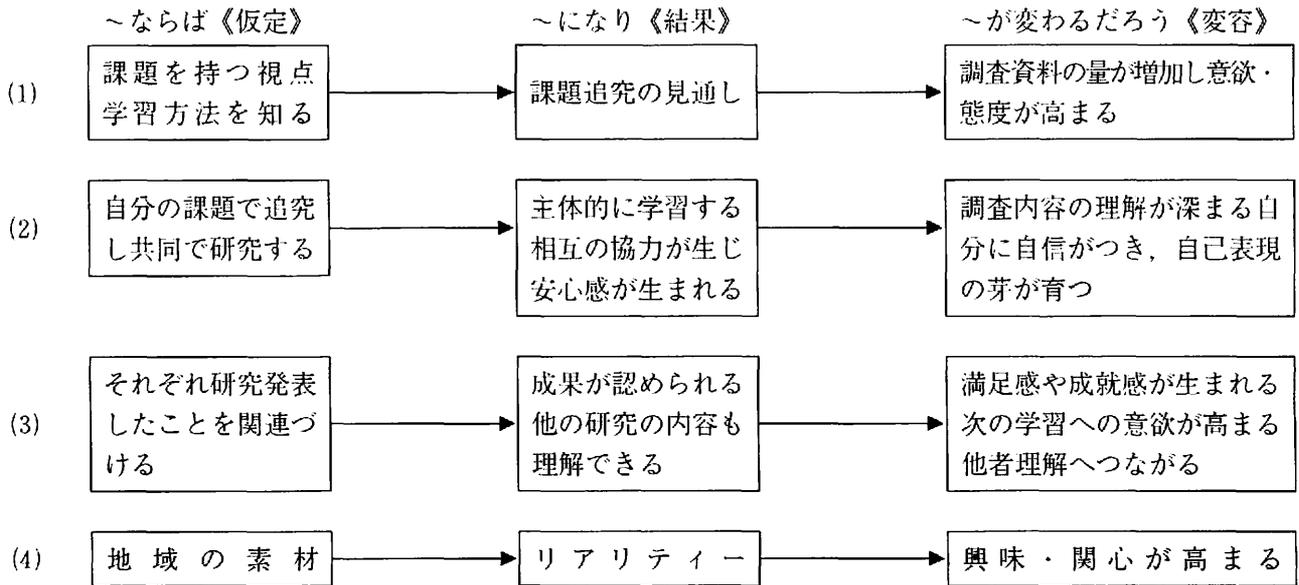
III 研究の仮説

- 1 基本仮説
(1) 歴史学習を同一の課題を持った集団で追究す

ることにより、学習への意欲や態度、発表内容や表現方法に変容が見られ、成就感、満足感のある学習をすることができるであろう。

(2) 地域の素材を活用することにより、体験や経験を伴った現実味のある活動が展開され、興味・関心が高まるであろう。

2 作業仮説



IV 研究の内容

1 地域素材を教材化する意義

(1) 学習の環境と子どもの発達の側面から

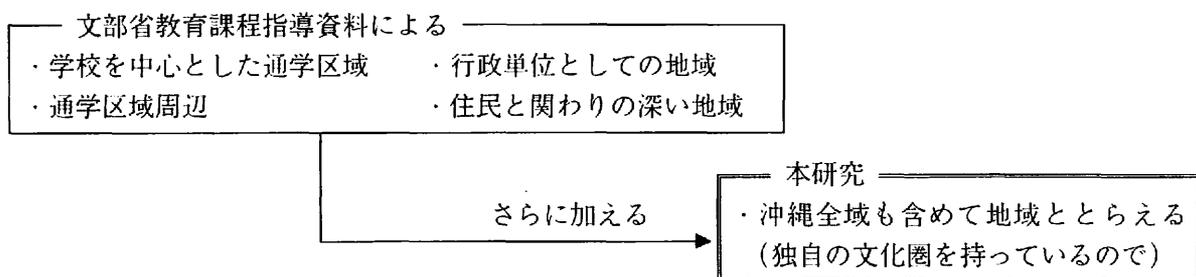
◦ 具体的操作から物事の論理的関係を知る時期→具体的な教材（地域の素材）

(2) 生活体験と基準の側面から

◦ 幼い頃の経験が物事を判断する基準となる→地域やそこに住む人の営み

2 地域素材の教材化の視点

(1) 地域とは



(2) 地域学習のねらい

◦ 地域社会の仕組みや人々の営み、関係などを
知り、その社会にどう向き合い、どう生きて
いくかを考え実践する素地を育てる

(3) 地域教材によって得られる成果

◦ 興味関心の開発がしやすい
◦ 調査の容易さや課題研究の発展性
◦ 学習にリアリティーを持たせる

◦ 地域活動への実践化

(4) 教材化する素材の選考の視点

◦ 子どもが活発に活動する
◦ 教育課程内の教材に替わる
◦ 生活の中でふれる機会が多い
◦ 地域の特長を顕著に表したもの
◦ 追初心・探求心をくすぐるもの
◦ 内容に発展性のあるもの

(5) 教材化の際の留意事項

- 子どもの発達や、これまでの経験・体験、家庭環境、地域性を考慮する。
- 教材化した内容と指導要領との共通点・相違点に留意する。

3 日本の歴史と琉球・沖縄の歴史との対照と地域教材表

小学校社会科教科書（6年）に掲載されている歴史と琉球・沖縄の歴史を対照化した。そして、琉球・沖縄の歴史素材の中から、小学校期に妥当と考えられる内容の教材化を図った。下記の表では、教材名だけを掲載している。

日本の歴史と琉球・沖縄の歴史との対照と地域教材表（小学生対象）

西 暦	時 代		日 本 本 土 の 歴 史		琉 球 ・ 沖 縄 の 歴 史		地域教材の可能性 ()は可能な学年	体験的内容
	日本	琉球 王代	主なできごと	社会の動きや文化	主 な で き ご と	社会の動きや文化		
約3万年前	旧石器時代			採集や狩りのくらし		山人・港川人などが居住	港川人の骨から大昔の想像図を書こう(6)	
約12000年前	縄文時代	不明		縄文土器	この時期の遺跡は未発見のため不明			石器づくり (6)
約2300年前	弥生時代	貝塚時代		米作りが大陸から伝わる 弥生土器 木製農具 青銅器		爪型土土器	爪型土土器のルーツを探ろう(6)	石器づくり (6)
	古墳時代			大和朝廷の統一が進む 小さくなくに各地にでき始める 巨大古墳が各地に作られる 大陸から、漢字・仏教などが伝わる		市来式土器(浦添貝塚)	浦添貝塚はごみ捨て場だったの?(6)	貝塚探検 (6)
600	飛鳥時代	奈良時代		聖徳太子が摂政となる (593) 大化改新 (645)		随の煬帝が琉球に遣いを出す 『隋書』(琉球国伝)	米のできるまで(2・4)	米づくり (4)
700	奈良			平城京 (710)		鑑真、南島(阿児奈波島)に漂着 (753)		
800	平			平安京(794)	貴族の力が強くなる			浦添市文化課をたずねて (6)
900	安	グスク時代		藤原氏が初めて摂政になる(868)				
1000	時			藤原氏全盛(1016)	武士がおこる 源氏物語、枕草子などの女流文学			
1100	代	舜天 英祖		源平の合戦、平氏滅びる 源頼朝が鎌倉に幕府を開く(1192)	武士の力がしだいに強くなる		王統発祥の地浦添の歴史を探ろう(6)	浦添市に残る文化財をめぐって(6)
1200	鎌倉時代			元寇(1274 1281)	あたらしい仏教が広まる	英祖王が浦添の極楽山に墓(浦添ようどれ)を築く(1261)		
1300	室町時代	三山時代 察度		足利尊氏が室町に幕府を開く(1338)		沖縄本島に元軍襲来(1296) 察度が明へ進貢する(1380)	このころから三山対立 按司のくらし(6) 琉球人はなぜ中国にわたったか?(6)	

西 暦	時 代		日 本 本 土 の 歴 史		琉 球 ・ 沖 縄 の 歴 史		地域教材の可能性 ()は可能な学年	体験的内容
	日本	琉球 王代	主なできごと	社会の動きや文化	主なできごと	社会の動きや文化		
1400	室 町 時 代	第一 尚氏		金閣がつくられる	尚巴志、三山を統一する(1429) 諺佐丸・阿麻和利の宴(1458) 尚門即位(第二尚氏王統始まる(1470))	万国津梁の鐘を首里城正殿にかける	尚巴志の三山統一と封建社会(6)	
1500		第 二	応仁の乱(1467)			八重山でオヤケアカハチの乱がおき、中山軍に平定される(1500)	円覚寺が建立される玉陵が築かれる	
1550	安 土 桃 山	二	織田信長が幕府を滅ぼす(1574) 豊臣秀吉が全国統一(1590)	鉄砲、キリスト教が伝来 士農の分離 自治都市誕生 秀吉、朝鮮出兵				
1600			尚 氏	関ヶ原の戦い(1600) 徳川家康が江戸に幕府を開く(1603) 参勤交代の制度(1635) 鎖国の完成(1639)		島津氏琉球へ侵入する(1609) * 検地を行う(1610-11) * 「掟十五条」を令達する砂糖・ウコンの専売制が始まる(1647) 羽地朝秀が摂政となり改革を行う(1666)	野国総官、中国から甘藷(さつまいも)をもたらす(1606) 備間真常、甘藷を広める * 木綿をもたらす * 製糖法を学ばせる 羽地朝秀「中山世鑑」を著す 「中山世譜」 「琉球国由来記」 「球陽」 「琉球国志略」	さつまいもは本当に沖縄を救ったのか?(6) サトウキビはお金のなるキビ?(4.6) 砂糖づくりにみる産業革命(5) 壺屋に陶器の店が多いのは?(5) 中国と琉球の伝統工芸(5) 蔡温の行政にみる封建社会の世の中(6)
1650	江 戸 時 代	王 統		各地で土地の開発が盛んになる	大飢饉で死者3199人を出す(1709) 蔡温、三司宮となる(1728)			
1700				町(商)人の力が強くなる		宮古で大津波(死者1万人余)(1771) 疫病大流行(死者4560人)(1772)		
1750			町人文化が盛んになる					
1800			新しい学問が盛んになる(国学・蘭学など) 寺子屋が増える					
1810					英国船、ライラ号・アルセスト号来航(1816)	外国船が次々と入港する		
1820				一揆や打ちこわしが多くなり始める	英国船、プロッサム号来航(1827) 「新集科律」制定(1831)			
1830					英国船、ロード・アーマスト号来航(1832)			
1840					仏軍艦アルクメヌ号来航(1845) 英国宣教師ベッテルハイム来航(1846)			
1850			ペリーが浦賀に来航(1853) 日米和親条約(1854) 日米修好通商条約(1858)	世直しの動きが盛んになる	ジョン万次郎来航(1851) ペリー来航(1853) 露国艦隊来航(1854) 琉米修好条約を結ぶ(1855)		一枚の写真から(6) (ペリー提督沖縄訪問記)	
1860			徳川慶喜が政権を朝廷に返す(1867)		牧志・恩河事件おこる(1859)			

西 暦	時 代		日 本 本 土 の 歴 史		琉 球 ・ 沖 縄 の 歴 史		地域教材の可能性 () は可能な学年	体験的内容	
	日本	琉球 王代	主なできごと	社会の動きや文化	主なできごと	社会の動きや文化			
1870	明治 期	第二尚氏	明治維新、江戸を東京とする(1868)	西洋文化が盛んに取り入れられる	宮古島民が台湾に漂着し殺される(台湾遺害事件)(1871)				
1880			廃藩置県(1871)	[学問のすすめ]が出版される	琉球藩となる(1872)				
1890			西南戦争(1877)	自由民権運動がおこる	琉球処分断行。琉球藩を廃して沖縄県を置く。(1879)				
1900			国会開設の意見書提出(1880)		県内を九行政区に分け、かく役所を設置する。(1880)				
1910			大日本帝国憲法発布(1889)						
1920			第一回帝国議会(1890)						
1930			英国との条約改正(1894)						
1940			日清戦争(1894)	製糸工業が発達する					
1950			日露戦争(1904)	重工業がしだいに発達する					
1960			日清戦争(1894)						
1970	大正 期	第一尚氏	韓国併合(1910)	米騒動が全国に広がる	徴兵制が施行される(先島は免除)(1898)				
1880			条約改正達成(1911)	労働運動や普通選挙運動がさかになる					
1890			第一次世界大戦(1914)	ラジオ放送始まる					
1900			国際連盟加盟(1920)						
1910			男子普通選挙制度制定(1925)						
1920			満州事変(1931)	世の中が不景気になる					
1930			国際連盟を脱退(1933)	軍の政治介入が強くなる					
1940			日中戦争(1937)						
1950			第二次世界対戦(1939)						
1960			太平洋戦争(1941)						
1970	昭和 期	第二尚氏	広島、長崎に原爆投下連合国に降伏(1945)	社会の改革が進められる	人身売買の厳禁(1938)				
1880			日本国憲法発布(1946)						
1890			朝鮮戦争(1950)	テレビ放送が始まる					
1900			平和条約、日米安全保障条約が結ばれる(1951)						
1910			国際連合に加盟(1956)						
1920			経済成長が進む						
1930			新幹線(東京・大阪)が開通する						
1940			公害が大きな問題になる						
1950			人口のかたよりが問題になる						
1960			沖縄が日本に復帰(1972)						
1970	琉球 政府	第三尚氏	日中平和友好条約(1978)	地球環境の問題が大きくなる					
1880			東西ドイツが統一(1990)						
1890			ソ連解体、独立国家共同体(CIS)に(1991)						
1900			首里城が復元される						
1910									
1920									
1930									
1940									
1950									
1960									
1970									
1980									
1990									

4 共同学習での授業づくり

(1) 共同学習の意義

新しい学力観における「個性の重視」を考えるときに、あわせて考えなくてはならないことの一つに、その個性をいかす集団(学級)をどうつくり出していくかということがあるのではないだろ

うか。学校の中で子どもは、常に何らかの集団に属し、ともに学びあい、助け合い、時には意見の食い違いから批判し合う中で、他者の目を気にしながら、自分の存在を確かめ、生きている。

このような学校の中で、学習活動は最もウエイトを占めている活動である。学習活動は、知識の

習得の他にも人間として生きていく上で必要な様々な能力を養うことを目標にしている。そこで、学習活動の中にも「個を生かす集団づくり」意識して取り組むことが、今日的課題の一つだと考える。

共同研究の中で子どもは、悩みや疑問点を共有したり、分かち合ったり、あるいは、知恵を出し合い解決したり、発見したりする。他者との関わ

りの中で、他者を尊重することを知り、「個」としての自分を存在を集団の中に見いだすのではないだろうか。

そこに、共同で研究する意義があり、「生きる力」の基盤の一つを育てることになるのではないだろうか。(図1)

(2) 共同研究の方法

- ① グループングして、その中から課題を見つける方法

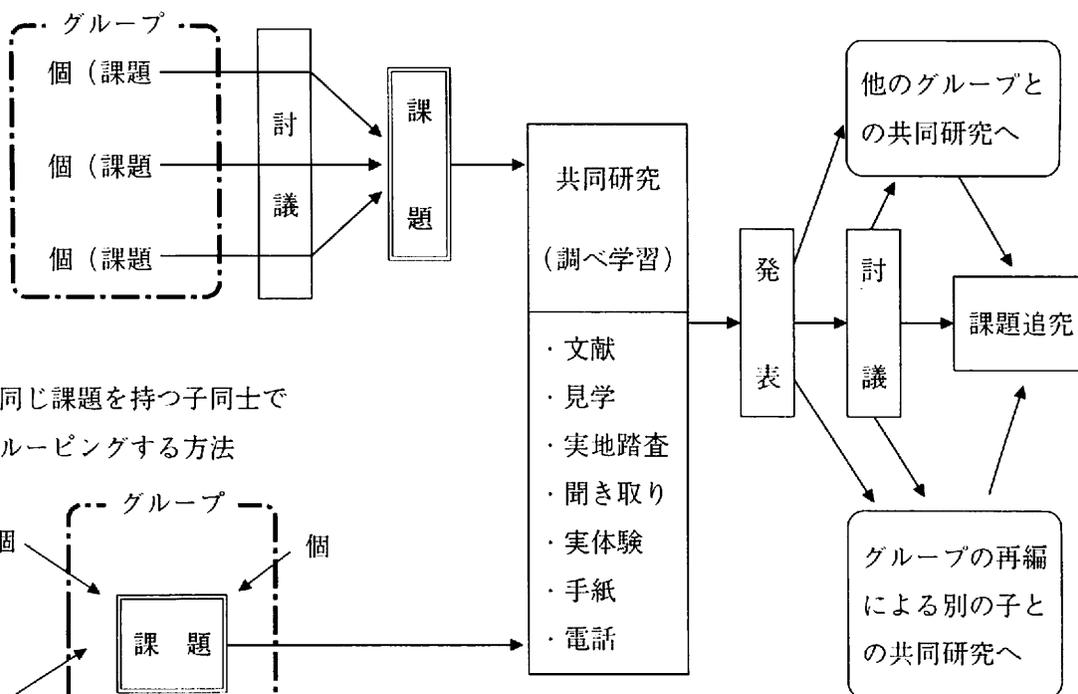


図1 共同追究学習の流れ

V 研究の検証

1 授業実践

- (1) 教材名 さつまいもから見える沖縄

- (2) 教材について

さつまいも（甘藷）は栄養価が高く、江戸時代に日本の大飢饉を救う食物として全国に普及した。さつまいもの普及といえば「イモ先生」とも呼ばれた青木昆陽がよく知られている。現在では、最盛期の昭和40年代の収穫量から比較すると約半分になったがそれでも約100万トンほどが全国で生産されてお

り、中でも鹿児島県の収穫量はその50%程度を占めている。飢饉を救った栄養価の高い食品だが、現在では食品としてよりも家畜の飼料としてそのほとんどが利用されている。

そのさつまいも（甘藷）は沖縄（琉球）と深いつながりのある作物の一つである。そこで、さつまいもと沖縄の関連についてあげてみると

- ①干ばつや風雨に強い作物で痩せた土地でも育つため、沖縄の気候風土でも十分に育つこと。
- ②栄養価（炭水化物、ビタミン）が高いので主食として十分であったこと。

③野国総官が中国からもたらし儀間真常が沖縄本島に広げた。やがて、それが長崎へと渡り、鹿児島へと広がるようになったこと。

④薩摩と琉球王国の二重の搾取に苦しむ農民を救おうとして広められた作物であること。等があげられる。

①～④の事実からどのようなことが学習できるかを考えると、①と②で「なぜ琉球の土地は痩せていた」「これまで干ばつや台風の時はどうしていたのか」「当時の人は何を食べていたのか」ということから当時の琉球の農民の農耕技術のことや一般民衆の生活の様子が学習できる。

③の「どうして中国から伝わったのか」ということから沖縄（琉球）の政治、経済や文化には中国との深いつながり（進貢）があったことなど、これまでの進貢貿易を通して行われてきた琉球王国の政治が学習できる。また、儀間真常の人物史についても学習できる。

④の「なぜ薩摩は琉球から搾取したのか」ということから、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際の徴兵問題や「薩摩入り」事件の際の日本の時代背景(鎖国, 参勤交代や幕府への上納金に苦しむ大名)など当時の中央集権政治について学習できる。また、農民からの搾取によって経済的に支えられていた支配層が琉球にも同様にあったことから琉球の封建社会についても学習できる。

(3) 児童について

①アンケート調査による実態と授業構想（考察）
検証授業の実施にあたり、事前にアンケート調査をした。（1997年5月）

アンケートの内容は ア情意・態度 イ社会（歴史）観 ウ授業の方法・スタイル エ関心・意欲 オ知的事項の5つの側面から行った。問題解決の授業と子どもの実態との適合性を見るためである。

アンケートの結果

《問1》 社会科の学習は好きか？

選 択 肢		女 子 16人中	男 子 12人中
好 き	割合	7 人	3 人
	理由	◇昔の人たちの暮らしがわかっておもしろい ◇調べ学習をするのがおもしろい ◇今の世の中がどう動いているかがわかる	◇戦争のことや歴史に興味がある ◇卑弥呼のことが知りたくて好き
嫌 い	割合	2 人	0 人
	理由	◇社会が苦手だから ◇先生の話が多くて眠くなる	
どちらでもない	割合	7 人	9 人
	理由	◇えらい人の名前が難しくて覚えられない ◇調べ学習は好きだけど覚えるのが嫌い	◇好きな学習と嫌いな学習がある ◇わかるときとわからないときがある ◇勉強は楽しいけどテストが難しい ◇教科書のページが多い ◇楽しいときとつまらないときがある

《考察1》

社会科の学習について「好き」と答えたのは、10人で全体の約1/3である。しかし、嫌いと答えた子は2人で少ない。また、好きな理由として自分自身の興味・関心がある内容や好きな学習方法と答えて

いるのに対し、嫌いな理由は、知識的内容が多いことを理由に挙げている。このことから、興味・関心を持てる内容で好きな方法（調べ学習）で授業を展開すれば、好きな学習となることが推測される。

《問2》 社会科（歴史）の学習は何のためにすると思いますか

女 子	人数	男 子	人数
◇社会のことや昔のことなどを知るため	3人	◇昔のこと（生活）や歴史を知るために	6人
◇将来仕事についたときや社会に出たときに役に立つから	4人	◇社会に役立つため	1人
◇日本と他の国を知るため	1人	◇歴史や世の中を知って将来のために役立てる	2人
◇将来のため	〃	◇高校大学の受験の時のため	1人
◇歴史や現代でおこっている問題を理解する	〃	◇いろいろな歴史を知らないといけないから	1人
◇昔の人のことをよく知り、未来でいかす	〃	◇無答	1人
◇未来は自分たちの世代です。今の世の中を知っていないと未来を変えることはできませんから	〃		
◇暗記力をつけるためとか…	〃		
◇無答	〃		

《考察2》

教養的な知識の1つとして捉えている子が約1/3、将来のことや自分のことと結びつけて考えている子が約1/3で女子に多いことがわかる。このことから、

学習と実生活が結び付いていない男子に対して体験的な内容を多く取り組んだ授業を展開することが必要だと考える。

《問3》 どんな授業だったら楽しそうですか？（複数回答）

女 子	人数	男 子	人数
◇調べ学習ができる	3人	◇みんなが発表して意見がいっぱいあったら楽しそう	3人
◇みんなで意見を言い合える	2人	◇しーんとしない明るい授業	2人
◇みんなで疑問を出し合いみんなで解決していく	2人	◇調べ学習が少ない方がいい	1人
◇発表が多くて明るく楽しい授業	2人	◇自分の好きな歴史の人についてくわしく調べる	1人
◇新聞を書く	2人	◇人物クイズをやったらい	1人
◇クイズをたくさん出す	2人	◇調べ学習がとても多くて新聞で発表あう授業	1人
◇無答	7人	◇無答	1人

《考察3》

ほとんどの子が学習方法についての回答で「発表」「調べ学習」「討議」といった自力問題解決型の学習スタイルを好んでいる。しかし、単に「明るい」と

か「クイズ」というやや快楽的（苦勞を伴わない）学習を好む子もいるので、調べ学習を行う際にはやり遂げることなど成就感が持てる内容にすることに留意しなくてはならない。

《問4》 尚寧王戴冠式の図を見て不思議に思ったことや調べてみたいことを書こう（複数回答）

女 子	人数	男 子	人数
◇まわりに人がたくさん居るのはどうしてなの？（中心人物とまわりにいる人との関係性）	8人	◇この人だあれ？（人物像）	7人
◇何をしているの？（様子）	7人	◇ここはどこ、どんな所？（場所）	3人
◇この人だあれ？（人物像）	5人	◇いつのこと？（時代・年代）	2人
◇手に持っているのは何？（道具）（まわりにあるもの）	5人	◇何をしているの？（様子）	2人
◇ここはどこ、どんな所？（場所）	3人	◇手に持っているのは何？	1人
◇いつのこと？（時代・年代）	1人		

《考察4》

疑問のほとんどが4W1Hの簡単な視点であげられている。女子の中には中心人物とその他の人の関

係性に着目した子が半数もいる。様々な視点の持ち方を知る取り組みが必要である。

《問5》沖縄の歴史上の人物で知っている人の名前をすべて書いて下さい

女 子				男 子	
◇儀間真常	5人	◇尚巴氏	1人	◇儀間真常	4人
◇野国総官	3人	◇阿麻和利	1人	◇英祖王	1人
◇英祖王	2人	◇屋良朝苗	1人	◇尚真王	1人
◇尚真王	2人	◇太田知事	1人	◇わからない	5人
◇程順則	1人	◇わからない	8人	◇ぎましんじ	2人
◇舜天	1人	◇ぎましんじ	1人		

《考察5》

4学年で学習した儀間真常について約1/3程度知っている。しかし、全く知らない子も約1/3強もいる。そこで、知識的な事項での学習よりも、全体の大きな流れの中で琉球の歴史を捉えさせたほうが歴史を認識する上で有効だと考える。

② その他の学級の実態と授業構想

元気があり、発言も多く意欲的に授業に取り組む子が多い。反面、発言の内容が衝動的で焦点化されていない場合もある。また、他人の意見に対して集中できない子も数人見られる。私語もあるが、その内容の中には、授業内容に関わるものも多いため、それぞれのつぶやきが絡み合い、学級討議と成立するならば、内容的にも深まるであろう。このような実態から「他人の話を聴く」「相手に分かりやすいように話す」という授業態度的な面の指導もさるこ

とながら学習内容、学習過程などで児童の興味関心を引きつけることが授業の最大のポイントとなると考える。

また、普段の社会科の授業でも「調べ学習」がよく行われているため、まとめることについては意欲的に行う子が多い。まとめ方も、上手で丁寧に仕上げることができる。しかし、資料をそのまま写し取った内容が多く、本当の意味での「調べる学習」になっているとは言いがたい。内容について質問しても分からないことが多いからである。このことは、対象学級の児童に限って見られる傾向ではなく、小学校の調べ学習全般に当てはまる場合が多いと思う。そこで、まとめ、発表する際には自分の言葉で分かりやすく表現することや自分の得意な表現方法で表現することにも留意したい。

(4) 指導計画(8時)

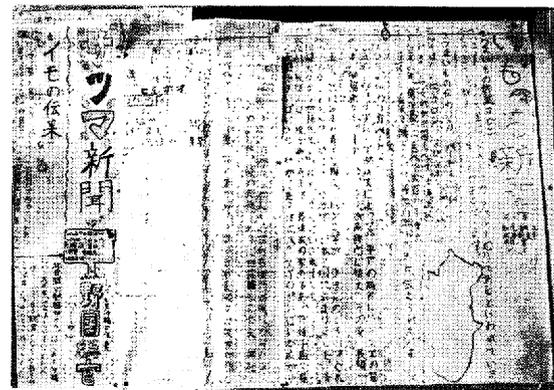
時	学 習 内 容	留 意 点 や 準 備 事 項
1時	<p>オリエンテーション</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>けん玉から何が学習できるかな？</p> </div> <p>《課題の発見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けん玉で使って学習課題を見つける ・子どもの見つけた課題を分類する。 (科学的、歴史的、言語的など) ・見て、さらに深く考え課題を持つ。 	<p>◎教室の中にある物すべてで学習することができることを知らせるために子どもたちが普段使っているものを使用する。</p>

	<p>《学習の流れ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づく→調べる→発表・話し合う→追究する <p>《調査の方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本で調べる。直接行く、見る、聞く。 電話や手紙で尋ねる。実際にやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習の流れを表で表し常時掲示できるようにする。 ◎子どものみでの調査が不可能なときは、父母や教師の協力を得ること知らせる。
2時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">さつまいもから学習できることを話し合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○グループごとにさつまいもから学習できそうなことをえる。 ○各グループの発表 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことが学習できそうか？（予想） ・なぜ、それを学習したいか（理由） ・どのように調べようと思っているか（計画） ○調査内容についての討議 <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の視点ぼけがないか（焦点化） ・調査可能な学習内容か（可能性） ・各グループへのアドバイス ○調査内容をグループで決定する。 ○調査の計画を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・日時 ・場所（調査場所、集合場所） ・調査方法 ・準備するもの 	<ul style="list-style-type: none"> ◎さつまいもを準備 ◎テーマの視点、学習の進め方の確認表をつくる。 ◎発表内容についての否定的な発言が多くならないように留意する。 ◎調査内容が児童に可能かどうか、調査の達成感のある内容への移行も考慮する。 ◎計画に無理がないかをチェックし、教師の援助が必要な際には、どのような援助をして欲しいかなどの話し合いを持つ。
時間外 各グループ（p5 ①のグループ）で調査する		
3時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">調査発表の準備をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○調査内容の効果的な発表方法について話し合いその準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙面を使っての口頭発表 ・新聞形式 ・視聴覚機器を利用して ・紙芝居にして ・ペープサートにして ・演劇風に身体表現を通して ○発表のリハーサルを行い効果的に短時間で発表できるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎とりのこ用紙、カラーマジックTP等の視聴覚用具 ◎各グループの特長が生かせるように巡回し援助する。 ◎グループは既存の学習グループ（8グループで3～4人編成）を使う
4時 5時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">調査したことを分かりやすく発表しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○1時につき4グループの発表を行う。 ○各グループ5分程度の発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表グループ以外の子は質問や意見等をノートに留める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎視聴覚機器、聞き取りメモ ◎発表内容が意味不明なものへの助言を行う。

○質疑・応答、討議

- ・質問事項についてわからなかった事項はメモする。
- ・質問事項でわからなかったことやグループ内で答えきれなかったことについて、他のグループで説明できることがあれば説明する。
- ・発表の中から出てきた重要な問題点については教師が話の内容を整理し次への視点として調査意欲を促す。

子どもの調査した新聞



発表者の評価点

- ・分かりやすい説明だったか
- ・自分たち独自の表現の工夫が見られたか
- ・質問事項に適切に回答することができたか

他の学習者の評価点

- ・メモを取りながら、発表をよく聴いているか
- ・質問事項が適切な内容か
- ・発表者が困っている際の援助が行えるか
- ・揚げ足取りのような質問内容には他の子に発表者の意図を汲み代弁してもらう。または教師も行う。

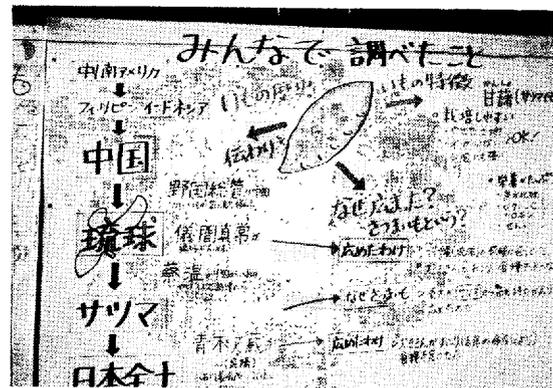
6時
7時

調べたことの中から、疑問点を見つけ、さらに調査するテーマを見つけよう

- これまで発表したことの整理を行い、その中から新たな視点を見つけだしていく。
- ・これまでの発表の中から発見したこと気づいたことをあげる。
- ・話し合いの中で出てきた疑問点、問題をあげていく。
- ・調査結果からの考察等を効果的な表現方法で発表できるように準備する。

発表内容のテーマごとにまとめ分かりやすく図式化する。

図式化した内容



時間外

各グループ (p 5 ②のグループ) で調査する

8時

学習のまとめをしよう

- 各グループの発表をする。
- グループ発表でわかったことや疑問点などを話し合う
- 発表内容から歴史について考えたことや調査学習の感想、探究してみたいことをまとめる。
- 学習の総括
 - ・研究成果の関連づけをおこなう。

◎視聴覚機器、聞き取りメモの準備

- ◎発表内容への助言
- ◎話し合いのコーディネイト

◎これまでの学習とこれからの学習

(5) 本時の授業 (8 / 8)

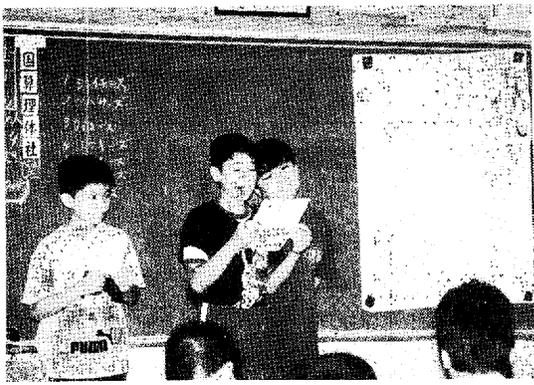
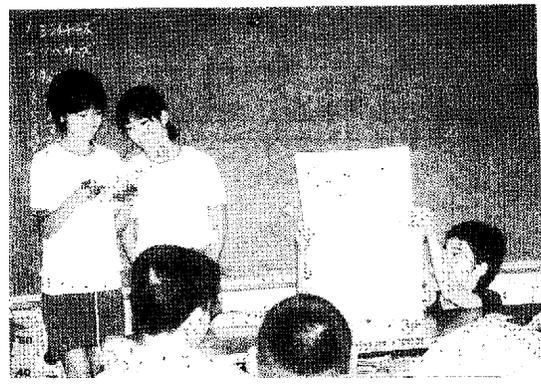
(1) 目標

- ① 追跡調査した内容を効果的に発表し、発表内容についての討議ができる。
- ② さつまいもを通して学んだ琉球の歴史と他国、本土の関係を知ることができる。
- ③ 自分たちで解決する学習の満足感や充実感を味わうことができる。

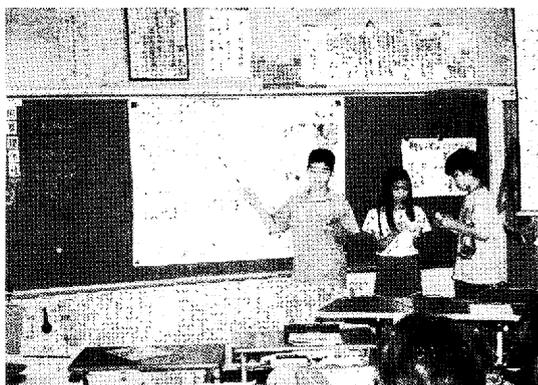
(2) 準備物、座席について

<p>【 準備するもの 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OHP ・ マグネット ・ 指示棒 ・ 質問、疑問カード ・ フラッシュカード ・ タイマー 	<p>【 座席について 】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>◇各グループの発表時</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">発表者</td> <td></td> <td style="text-align: center;">OHP</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>◇話し合い、まとめ時</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">黒板</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> </div>		発表者		OHP																		黒板										
	発表者		OHP																														
	黒板																																

(3) 展開

経過	学習内容と子どもの様子	留意点
はじめ ・ 1分	<p>◆本時の学習内容の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>調査内容の発表 (各3分) 質問、話し合い (7分) 調査内容のまとめ (10分) 学習のまとめ、感想 (5分)</p> </div>	<p>☆各グループの発表時間の厳守するために、準備等を効果的に行なえるよう特に気をつけさせる。</p>
なか 発表 ・ 3×7 21分	<p>◆各グループの発表を行う 子ども達のテーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①野国総官は何のために中国へ渡ったか ②儀間真常は本当に農民の暮らしをよくしようとしたのか ③さつまいもが広められた頃の農民の暮らしはどうだったか ④蔡温が薩摩にイモを持っていったのはなぜだろう ⑤儀間真常っていったいどういう人だったか ⑥儀間真常の仕事と農民のくらしの関係は？ ⑦さつまいもはなぜ雨風に強いのか</p> </div> <p>①の発表の様子 (新聞形式とTP)</p> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div>	<p>☆各グループの発表についてのメモは丁寧になりすぎないように机間巡視して指導する。</p> <p>☆子どもの発言が聞き取りにくかったり、内容が不明瞭な点については、もう一度言わせるか教師がかみ砕いて補足説明をする。</p> <p>☆発表の効果的な方法についても、随時、援助する。</p> <p>☆各グループの発表の要約を行い、フラッシュカードに書き留める。(児童発表時に行う)</p> <p>②の発表の様子 (自作ストーリーの紙芝居)</p> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div>

③の発表の様子（図式化）



⑤の発表の様子（図式化）



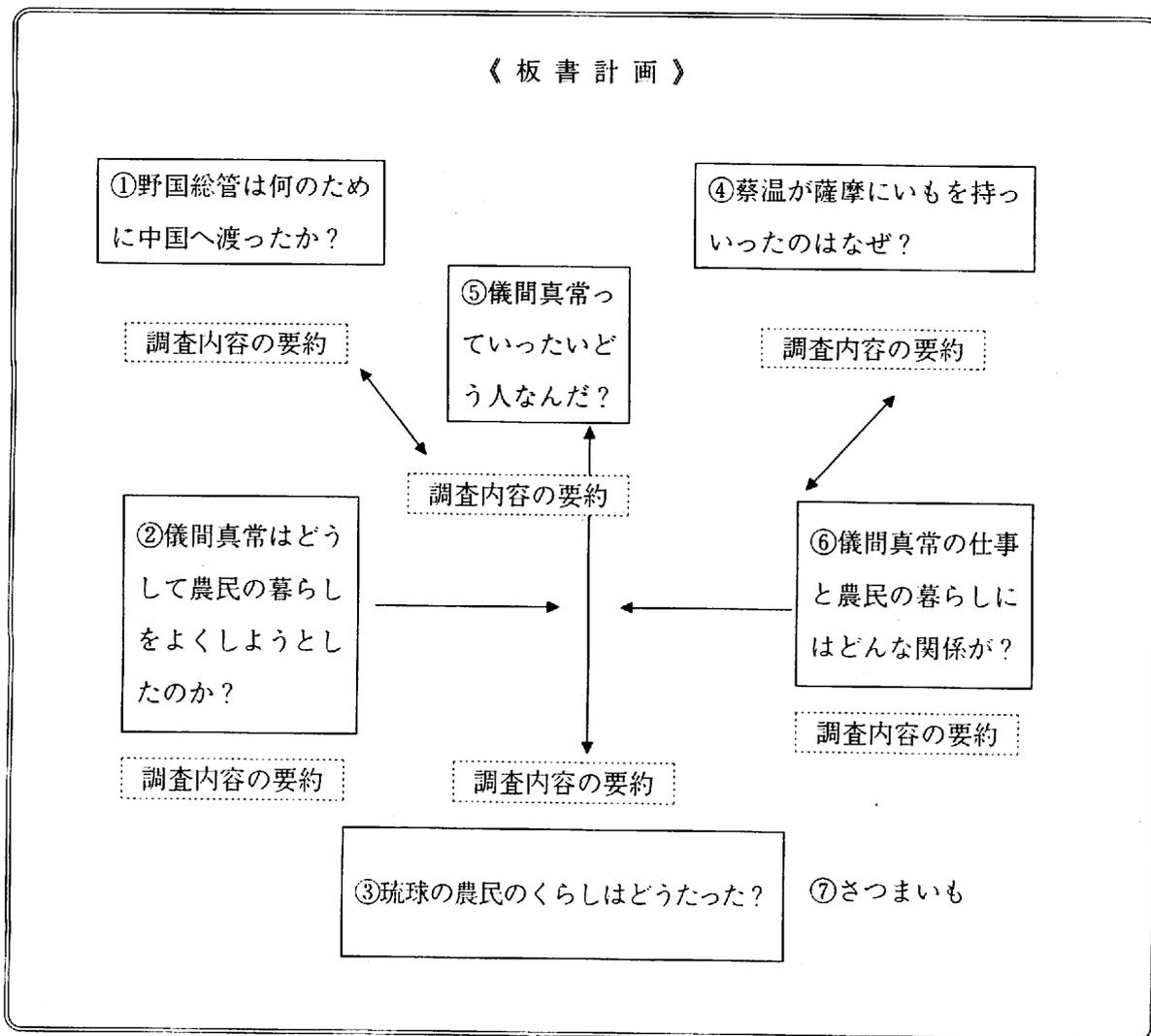
なか
質疑応答・7

- ◆発表内容について質疑応答をする。
 - ・座席を対面型にする。
 - ・質問以外にも、疑問に思ったこと反対の見解なども述べる。
 - ・その場で質問しその場で答えるスタイルをとり、必要に応じて発表資料も使う。

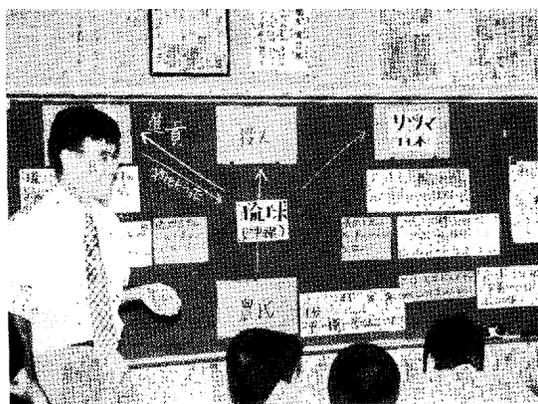
- ☆話し合いのコーディネイトは教師が行う。
- ☆質問の内容が不明瞭な点は教師が代弁する。
- ☆話し合いの内容が児童の興味を誘い、学習内容に関係があるときは、まとめの時間を少なくして十分に討議させる時間を保障してあげる。

なか
調査内容のまとめ
10分

- ◆調査内容のまとめをする。



・児童の調査内容の要約をしたフラッシュカードを使い、それぞれの発表を関連づける



☆児童の発言を取り入れながら順序を追って丁寧にまとめる。

まとめ感想・5分

- ◆学習して分かったこと、さらに疑問に思ったこと、これから調べてみたいことを書く
- ◆問題を解決する学習についての感想も書く
- ◆学習のまとめや感想を発表する。
- ◆教師の総括をする。

- ☆これまでの児童の努力と学習の成果を評価する。
- ☆これからの学習についての希望をメッセージとしておくる。

2 仮説の検証と考察

(1) 作業仮説①の検証と考察

《 調査の対象 》について

① 文献による調査	84%
② 聞き取りによる調査	16%

《 資料（文献）の収集量 》

① 10冊以上	8%
② 5冊以上～10冊未満	64%
③ 2冊以上～5冊未満	28%
④ 1冊	0%

【考察】

子どもそれぞれの課題の中には、調査しにくい内容が多くあったために、文献が増えたとも考えられる。しかし、小学校の児童の発達段階から考えると、多量な情報を収集しての調査はあまり見られないことから、収集量が増えたことは意欲的に活動したと考えられる。

《 場所の多様化 》について

① 学校の図書館	76%
②市営・県営図書館	20%
③ 実地見聞	4%

《 質問や情報交換について 》

- ① 内容についての質問は全員が行った
- ② 作業及び表現方法についても全員が行った
- ③ 児童相互の情報交換については、ほとんどの班が行った。他の班の資料が見つかる教えあげたり、他の班の作業を手伝う様子も見られた。

情報交換に関しては、一概に興味が高まったからという理由だけでなく、うまく仕上げるための「焦り」といった情動に関わることも多いが、興味関心と情報交換の関連が少ないとも言いがたい。意欲・態度を検証する手だてとしては、別の角度からの検証が必要である。

(2) 作業仮説②、③の検証と考察

児童による総括《 授業の進め方の良い点と改善点 》

《良い点》

①みんなで話し合って解決した。言いたいことが言えた。発表の仕方がうまくなった。他	20%
②わからないところがわかった。わかりやすかった。イモのことがわかって楽しかった。	16%
③新聞をかいて、それを使ってまとめたところ。新聞づくりが成功した。他	16%
④グループで協力できた。みんなで一生懸命考えた。みんな真剣だった。	16%
⑤自分のやりたい調べ学習ができた。調べ学習が楽しかった。	8%
⑥新聞づくりでほめられた。発表がうまくできてほめられた。	8%
⑦無答	12%

《改善点》

①おしゃべりを少なくしたい。友達の話をしっかりときく。他	24%
②もっと時間が欲しい。連絡をしっかりとして欲しい。	12%
③学習の題材も自分の好きなものでしたい。	4%
④なし	60%

【考察】

児童があげた良い点に、①うまく表現できたこと、②内容が理解できたこと、④協力しあえたことがある。作業仮説②と関連させてみると自分の課題で追究したことがそれぞれの発達段階に合った学習内容であったことや共同での取り組みが自信を引き出し、

自己表現につながったと考えられる。

また、他にも良い点として③自分の成果を生かしたこともあげている。これを作業仮説③と対照してみると、成果が認められたことが成就感・満足感となっている。このことは、次に提示する「子どもの感想通信」の中にもいくつかあげられている。

(3) 子どもの感想

授業後の子どもの声を学級通信として発行した。授業に対して子どもの本音が語られていると考える。通信の内容からも仮説の検証ができるのではないかと考え掲載した。

いもち

みなさん、先日の授業はご苦労さまでした。皆さんの上手な発表ぶりに仲宗根は、びつくりぎょうてんしてしまいました。もっと驚いていたのは、皆さんの授業を見に来た研究所の先生方でした。特に所長さんは「6年生でこんなにうまく発表できるのには感心した。」とおっしゃっていましたし、その他の先生方も「まとめ方がうまい」とか「よく、ここまで調べあげたもんだ」と6の3のみんなをほめちぎっていました。なんだかわたしまで嬉しくなってきました。8時間の授業という短い時間でしたが、皆さんと一緒に授業できたことがとても幸せです。

授業の感想コーナー ☆子どもの感想 ★仲宗根のコメント

☆ぼくは、この勉強で、1つのことをおっているうちに時代をさかのぼり、いろいろな歴史がわかることをわかりました。さがしているうちに、「これなんだ」「あれ」と思うことを調べるとまた、かだいが出て、植物の根つこのようにいろいろな考えに分かれていきます。このようなことをしているといろいろなことが分かることを知りました。次からも1つのかだいから、いろいろな考えを生み出し、いろいろ調べてみたいです。さつまいものこともまだまだ調べたいです。 《たがあき》

★とても大切なことを学んだね。身の回りの疑問にもっと注目すれば、将来は博士か大臣か？期待してるよ！

☆みんな、いっぱい調べてきていて、聞いていても、すごいことまで調べてきていて、オオーと思いました。でも、自分たちのも、なかなかよかったです。 《ひろき》

★私もオオーと思いました。中でもひろきくんのグループの発表は自分たちの疑問から、新たな疑問が生まれて、それについてまた調べたところがうお

☆私は、いままで、たった1つのいもを調べるだけで、こんなにいっぱいの資料が見つかるなんて思いませんでした。私は、社会がきらいでした。でも、いままでやってきて少しずつ好きになってきました。 【ひでみ】

★自分たちの作った資料に感動したでしょ！社会のおもしろいところをもっと見つけれるといいね。たぶん、だーい好きになるよ！

☆私は、みんなの発表を聞いていろんなことがわかりました。いもは水分が少なくてもたえられるとか、農民のくらしはどうだったとかよくわかりました。特に一番わかりやすかったのが翼クンの発表でした。 【なつこ】

★他のグループの発表をしっかりと聞いてそこからたくさん学んだなちゃんには、きつと、他人を受け入れられるひろーい「心のダム」があるんだね！ by あんちゃん

☆この発表で、いもがどんなかんきょうでもたえられる作物だとは思いませんでした。だから、いけんでいわれたことも、調べたいと思います。 《りょうじ》

★さらに調べようとする君の姿勢は、研究者と言えるでしょう。「いも博士」の誕生も近いかも？

☆さつまいもには、いっぱいの歴史がつまっているんだと思いました。さつまいも1つに、こんないっぱいの新聞がきたんだとびっくりしました。 《いつき》

★いっちゃんにもいっぱい歴史がつまっているんだぞ。いま生きている、その瞬間が歴史として積み重ねられていくんだ。いっちゃんはどんな歴史を残すのかな？

☆さつまいも1つのことだけでこんなにいっぱいの新聞を書いていただとは思ってもいけません。しかも、さつまいもだけで、そんないっぱいの関係者(歴史上)の関係者がいたとは…。それとさつまいもにも、こんな多くの歴史があるとは、またおどろき… 《つばさ》

★学周は驚きの連続です。きつと、熱心に調査したつーくんの「努力の賜物」ですね。学周しちやつたね、きみ！

☆ぼくは、このじゅぎょうで、社会が少し好きになった気分でした。昔は、社会という言葉を聞いただけでもいやだったから、とてもよい勉強になったと思いました。

《なおき》

★うれしいね～。そんなこと言ってくれるあなたを、好きになった気分です

☆ぼくは、このべんきょうについて、とてもがんばったとおもいます。 《ゆうき》

★自分で「がんばった」と思うことはとても大切なことなんだ。がんばった自分をうんとほめてあげて下さいね！

☆自分たちで調べたいがいのこともわかった。はじめは新聞書くのもいやだったけどだんだん楽しくなった。

《ようへい》

★ようくんの書いた進貢船や尚寧王の絵は発表をよりわかりやすくしたと思います。とても上手でした。今度、先生の似顔絵も書いてくれない？

☆ぼくは、先生と授業をしてわかったことがいろいろありました。ぼくは、先生と授業をして本当に楽しかったです。 《しんいち》

★しんちゃんズがこだわりを持って調べている姿が、先生の心に残っています。先生と一緒に学習できてうれピーです。

☆時間がなくて、急いでやったわりには、けっこううまくできたなあと思いました他のグループも、前にくらべてわかりやすいなと思いました。でも、本当はもっと調べたのに、時間がなくて、大切なところを書けなかったのがとても残念です。 【まより】

★あのまとめ方、特に衣食住の視点を持って農民のくらしをまとめたのにはびっくりした。それなのに、もっとすごいことを調べていたなんて…教えて！

☆さつまいも1つで、こんないっぱい出るとは思わなかった。私たちは、少なかったけどみんないっぱい書いてすごいな 《かええ》

★でも、あなたのグループは発表の練習をしてたじゃない、とても楽しそうに。楽しんで学習したあなたもすごい

☆ただのさつまいもから、こんなにいろいろなことがわかって、すごいな～と思いました。とっても楽しかったです。 《しゅうへい》

★ということは、さつまいもは、ただのイモじゃなくってすごいもだったんだね。何気ないこと、何気ないものにたくさん秘密が…。それを発見するのは、君だ！

☆紙しばいを作って、とてもいやだったけどいまはとってもよかったと思っています。 《い・ゆうき》

★「終わりよければ全てよし」って言う感じ？ 「いやよ、いやよ好きの内」とも言うし…

☆サツマイモに関係する人は、1人くらいだと思っていたけど、こんなにいるとは。中国にまで関係するとは思いませんでした。 【まき】

★ひとつのことを追っていくと、思わぬところにたどり着くかも知れませんね。だから、調べ学習っておもしろいんじゃないかなあ？

(2) 作業仮説④

(授業後のアンケート調査 1997,7,30実施より)

《 社会科が好きか 》

	授業前	授業後
① 好き	35%	68%
② 嫌い	7%	0%
③ どちらでもない	58%	32%

《 沖縄の歴史に興味があるか 》

① 興味がある	64%
② 興味がない	32%

【考察】

学習の現実味を感じさせる素材として「さつまいもから見る歴史」を題材にしたが、「さつまいも」は、現在の子どもの実状（さつまいもを食べる機会が少ない）に適した素材であるのか、研究の余地がある。

しかし、本時の授業後に「社会科が好きになった」と答えた子が約30%増えたことに関しては、沖縄の素材が児童にとって、現実味があり興味関心を引き起こしたとも考えられる。ただし、学習の進め方そのもの（課題追究のスタイル）が、学習欲求を高めた大きな要因であることは否めない。

VI 研究のまとめ

1 成果

- ① 課題追究の学習スタイルが子どもの欲求（みんなで創りあげる授業）と合致していた。
- ② 子どもそれぞれが表現する出番を多く設けたので、表現する力が付き、子ども自身の自信につながった。
- ③ 共同学習のスタイルを2つの方法で取り組んだことにより、追究する楽しさに加えて協力することのよさを体で感じ取ってくれた。
- ④ 地域の素材を教材化した内容であっても、目標をもち、計画や指導・援助を綿密に丁寧に行えば、指導要領における目標が十分に達成されることを確認した。
- ⑤ 授業後の総括によって、子どもも教師も次の学習への見通しが持てるようになった。
- ⑥ 学習後に子ども自身で「よくやったなあ」という満足感が得られた。

2 課題

- ① 素材選定の際、経験や体験を通して学習ができるものをよく吟味する必要がある。
- ② 学習の追究する際に子どもに「楽しい」と感

じさせる内容を取り入れる。

- ③ ゆとりを持って行える長期的な学習過程が必要である。
- ④ 校外学習を行う場合の父母との連携をどうつくり出していくか。

終わりに

子どもたちの様子が年々変わってきているにもかかわらず、自分の指導はなかなか変えることができないでいました。じっくり腰を据え、現場から一歩離れた研究所での6ヶ月は、そんな自分自身を振り返る貴重な時間でした。

様々な視点から物事を見つめる学習は、様々な視点で子どもを見つめることの大切さを再確認し、共同で学ぶことは、個性を尊重することでもあることを発見しました。地域の素材を発掘する中で沖縄の歴史や現状を知り、これから子どもたちに何を伝えていけばよいのかを考えました。今回の学習は、子どもから学ぶことが多かったため、子どもと共に学ぶことをの大切さを痛感しました。

「先生ー、また一緒に勉強しようね！」

と子どもたちが言ってくれたときに、やって良かったという思いと、今までの実践を反省させられる思

いが入り混りました。さらに、6ヶ月もの研修期間を得られる教職のありがたさを痛感した。

常に、私たちの意見を尊重し、暖かく指導して下さった田中所長をはじめ、研究所職員の方々には、本当に感謝いたします。また、6ヶ月間、お世話に

なった福里、前城の両先生、ありがとうございます。さらに、快く送り出していただいた安谷屋校長先生をはじめ内間小学校の先生方や研究授業のために貴重な時間を下さった仲栄真先生と6年3組の子どもたちに、心より感謝申し上げます。

参考文献

- 社会科の初志をつらぬく会編 1989 地域の教材はなぜ効果的か 黎明書房
次山信男共著 1988 地域素材を生かす社会科単元の開発 東洋館
有田和正 1987 教材発掘の基礎技術 明治図書
有田和正著作集 1989 社会科単元の構成法 明治図書
千葉保 1991 日本は、どこへ行く? 太郎次郎社
里見実編著 1993 地球は、どこへ行く? 太郎次郎社
依田彦三郎編著 1993 ゴミは、どこへ行く? 太郎次郎社
琉球新報社編 1992 新琉球史シリーズ(全4巻) 琉球新報社
大城立裕 1992 琉球の英傑たち プレジデント社
高良倉吉・田名真之編 1993 琉球王国 河出書房新社
新城俊昭 1994 高等学校 琉球・沖縄史 沖縄県歴史教育研究会
浅野誠 1992 沖縄県の教育史 思文閣出版
源武雄 1980 琉球歴史夜話 新星図書
徳田友子他 1992 まんが偉人伝沖縄史の5人 琉球新報社
又吉眞三監修 1992 首里城ものがたり(上・下) 琉球新報社
ラブ・オーシュリ・上原正稔編著 1987 青い目が見た「大琉球」 ニライ社
浦添市史編纂委員会 1989 浦添市史第一巻 浦添市教育委員会
滝沢武久 1985 子どもの思考と認知発達 大日本図書